

平成26年生駒市教育委員会第5回臨時会会議録

1 日 時 平成26年8月11日(月) 午前9時30分～午前11時15分

2 場 所 生駒市コミュニティセンター 401会議室

3 審査事項

(1) 平成27年度使用小学校教科用図書採択について

4 出席委員

委員長 山本吉延

委員(委員長職務代理者) 村田浩子

委員 平本重次

教育長 早川英雄

5 事務局職員出席者

教育総務部長 峯島 妙

教育総務課長 真銅 宏

教育指導課長 吉村 茂

教育指導課課長補佐 奥田 真代

教育指導課指導主事 小野 雅史

教育総務課(書記) 松井 恵

6 傍聴者 12名

○開会宣告

○日程第1 会期及び会議時間の決定

○日程第2 平成27年度使用小学校教科用図書採択について

【 国語 】

山本委員長：種目ごとに審議する。

国語の教科用図書の採択を行う。教科書は東京書籍・学校図書・三省堂・教育出版・光村図書出版の5社である。意見をいただきたい。

早川教育長：今回の教科書選定を前に研修会を行い、学校、調査研究部会からの報告書や県の選定資料等を基に見直しをしてきた。これらに基づいて、主に違いを指摘しながら意見を述べたい。

東京書籍と光村図書出版は4年生までが上下巻に分かれ、学校図書と教育出版は全学年が上下巻に分かれている。

他社とは少し違う構成をしているのが三省堂で、2年生以上で本書と「学びを広げる」という資料集に分かれる。これは本書で基礎・基本を身に付け、資料集で発展的学習に取り組むためとしているが、選定会議でも意見が出されたように、特に別冊にする意義はなく子どもの持ち運びの面からも本書に入れ込む方がよい。

また、東京書籍と光村図書出版は5・6年生が合冊になっており、年間を見通した進め方の計画を立てるのによい。

平本委員：導入段階で、美しい写真や楽しい絵で児童を引き付けることは教科書には必要だと考える。特に光村図書出版の写真・絵の色彩は美しく、物語性のある表紙が豊かな個性を育てると思う。

村田委員：東京書籍は内容が豊富で説明が詳しくてよい。ただ、そのため文字が多く行間が狭くなっており、国語が苦手な子どもにとっては少し読みづらいかもかもしれない。

製本では、三省堂と光村図書出版の表紙が厚くて撥水力が強い。国語の教科書は他の教科書に比べて使用頻度が高く、1年間の使用に十分耐える丈夫な作りであることも大切である。

早川教育長：学習指導要領では、国語学習で身に付けた言語能力を他教科でも活用できること、思考力・判断力・表現力を育てるには言語活動と関連させることが述べられている。どの出版社も話し合いの仕方、新聞の作り方、など、情報活用力や情報発信力の伸長を意識した教材がある。加えて、光村図書出版には、ほとんどの学年で自己表現のもとになる語彙を豊かにする資料として「言葉の宝箱」を設けているのは大きな支援となる。

教科書展示会の市民のアンケートでも、子ども自身が自己表現できる教材が必要だというご意見をいただいた。自分の考えをまとめて発信する力は、これからの時代を生きる子どもたちに培っていかねばならない。そういう意味において、具体例を示し、過程を大切にし、自主的に進めさせている手法をとっている光村図書出版がよい。

平本委員：文科省は自国の伝統や文化を尊重することが、他国の歴史や文化を認めることにつながると述べている。古典にはできるだけ早い時期から触れさせるのがよいと言われ、各社の教科書には俳句や短歌、古文や漢文、歌舞伎や狂言なども取り上げられているのが今回の特徴である。

早川教育長：学校図書では「わたし風『枕草紙』」で、枕草子を学習後、自分で随筆を書く内容になっており、新たな古典学習の展開だと感じた。また、小学校段階で重要なのは「声に出して読む」ことである。言葉の美しさ、響き、を感じさせるためには、声に出して読むことが大切である。俳句・短歌を音読し暗唱することで、子どもたちは5・7・5のリズムの面白さに気付き、関心を持つことになる。古典を「声に出して読む」をコンセプトに教科書を編成しているのは学校図書と光村図書出版である。生駒市は本年度「環境モデル都市宣言」をした。市内に住む子どもたちが環境問題に興味を持ち、理科や社会、家庭科や総合的な学習の時間にも活用できる教材がどの出版社にもあるのはよかった。

村田委員：読書活動の推進が言われて久しい。生駒市では本年度からすべての小中学校に週2日学校図書館司書を配置し、読書活動に力を入れている。国語の教科書では、是非、発達段階に応じたよい本をたくさん紹介してほしい。本の紹介が充実している点で、東京書籍と光村図書出版がよい。

山本委員長：3人の委員の意見では光村図書出版がよいという意見が共通している。国語科では、光村図書出版を採択することに異議がないか。

(異議なし)

審議結果 【光村図書出版を採択】

【書写】

山本委員長：書写の教科用図書の採択を行う。教科書は東京書籍・学校図書・三省堂・教育出版・光村図書出版・日本文教出版の6社である。意見をいただきたい。

早川教育長：東京書籍は他社と比べ横幅だけが3cm程度長くなっている。これは書き込み欄を増やして硬筆学習で練習帳の機能を持たせる点では有意義である。しかし、3年生以上の毛筆の学習時は机の上が道具でいっぱい狭く、大きな教科書は扱いにくい。

平本委員：初めて毛筆を学習する3年生の初めに、各社とも、筆の持ち方や学習時の姿勢、机の上の道具類の配置等を図や写真で示しているが、光村図書

出版だけが、硯や筆などを書写セットのケースごと机に置く写真を使っている。光村図書出版の写真が参考になる。

調査研究報告書にあるように、東京書籍と光村図書出版は、漢字の表を硬筆と毛筆で掲載していて、さらに前年度に学習した漢字も掲載している。

選定会議でも意見が出されたが、学校図書の「かご書き」「ほね書き」という練習方法は毛筆の文字の形をとらえるのに有効な方法であり、児童が自分で練習できる手段の一つとして興味深いものである。

光村図書出版の見開きページは効果的である。

どれもよいところがあるが、総合的に見て光村図書出版がよい。

村田委員：光村図書出版がよい。

鉛筆を正しく持つことが、美しい字を書くことにつながる。光村図書出版は、鉛筆を持った状態で手を教科書の指定の場所に置くと、正しい鉛筆の持ち方の手と自分の手とを比べることができるようになっていて、自分の鉛筆の持ち方が正しいのかどうかを確かめられる。

三省堂の教科書には毛筆書写授業後の道具類の後始末の仕方が書かれていない。筆や硯の後始末の仕方については、毛筆指導が始まった時に徹底させる必要があるので、是非とも欲しい内容である。

早川教育長：毛筆の運筆については、どの出版社も朱色と薄墨の2色の色を用いて分かりやすく示している。中でも、光村図書出版は、筆の運び方や穂先の方向がよく分かるようになっている。また解説も詳しいので、児童が見て主体的に学習できるようになっている点がよい。

日本文教出版の教科書には小筆の持ち方や後始末の仕方、書き損じた半紙を、小筆を持つ手の敷紙にして名前を書いている写真が載っている。細かなことに関与しながら小筆の指導にも配慮されている。光村図書出版がよいと思うが日本文教出版もよい。

山本委員長：光村図書出版がよいという意見が多い。書写では、光村図書出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【光村図書出版を採択】

【 社会 】

山本委員長：社会科の教科用図書の採択を行う。教科書は東京書籍・教育出版・光村図書出版・日本文教出版の4社である。意見をいただきたい。

平本委員：県の選定資料から、東京書籍と日本文教出版が内容別配当ページ数や教材・資料の分量が充実していることが分かる。また、5・6年生の教科書は、3社の上・下巻2分冊に対し光村図書出版は年間1冊である。年間のページ数でも最大45ページ少なく、教材や資料が少なくなっている。

る。また、光村図書出版は1冊にまとめたことで、かなり厚く、重くなっている。児童の持ち歩きに負担がある。

早川教育長：児童は先日来の台風で災害について意識づいたかと思う。生駒市では、子どもたちの防災意識や危機意識を高めることを重視した観点から見てみた。どの教科書も自然災害や防災について取り扱っているが、東京書籍と日本文教出版はこれらの扱いが充実している。特に日本文教出版では、18ページにわたって、東日本大震災、阪神大震災、原発事故を扱い、自助、共助の考えにまで深めている細やかさは他社と比べてよいところである。

市として力を入れている環境については、日本文教出版が充実している。環境モデル都市・堺市を取り上げ、市全体での環境の取組を紹介しており、3月に環境モデル都市に制定された生駒市の取組を学習する上で参考になる教材である。

生駒市の学校として、日本文教出版がよい。

山本委員長：これまでの意見は、生駒市が力を入れている内容と同じ方向性を持つ教科書ということが重要ということである。

平本委員：掲載写真や表・グラフが多いのは、東京書籍や日本文教出版である。実物を見たり聞いたり触れたりすることで、子どもの理解は深まるが、そのための大きな支援のひとつが写真であり、考えたり発見したりするものになる情報が表・グラフである。特に社会科ではそれらの資料が重要と考える。

東京書籍か日本文教出版がよい。

村田委員：文科省の全国学力・学習状況調査やOECDの到達調査で、今の子どもたちは、暗記することは得意だが、数々の情報から自分なりの考えを導きまとめる力に課題があると言われており、生駒市も同様の傾向がある。言語活動を充実させるために、考え、話し合う活動を行う際に、日本文教出版が表やグラフは最も多く内容も分かりやすい。また、選定資料にもあるように、子どもたちが自分の意見を出し合ったり互いに聞き合ったりする場面で様々な立場からの意見を多く例示し、話し合い活動を支援している。

日本文教出版がよい。

早川教育長：皆さんと同意見である。中学年で上水道の学習を行うが、日本文教出版の教科書では奈良市の具体例をあげている。児童の視野を広げるためには、身近な教材を扱うことは大切である。そういう意味で日本文教出版がよい。

山本委員長：日本文教出版を推奨する意見が多い。社会科では、日本文教出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【日本文教出版を採択】

【 地図 】

山本委員長：地図の教科用図書の採択を行う。教科書は東京書籍・帝国書院の2社である。意見をいただきたい。

村田委員：東京書籍は落ち着いた色合いで見やすいが、帝国書院は色調が強い。地図帳の使い方のところで、東京書籍は、地図記号、索引、方位縮尺、地形表現が、それぞれ標題が見やすく整理されていて分かりやすい。東京書籍は、索引のところも、地名の場所が地図帳のどこにあるのか、キャラクターの吹き出しを使って、探し方の手順を分かりやすく示し、工夫されている。

東京書籍は、地形表現では陸の高さや海の深さごとに帝国書院と比べてより細かく色分けをしたり、影をつけたりして地形の様子がとても分かりやすい。帝国書院よりも立体感があり分かりやすい。

東京書籍がよい。

平本委員：帝国書院は色彩がソフトで活字がクリアに出ている。

帝国書院は、宇宙から見た日本列島の鳥瞰図や地図の成り立ちと約束などうまく配置され、地図学習を進めていく上での基本が最初にしっかりおさえられている。

47都道府県の位置の確認や県名の確認を意図した番号付き白地図が帝国書院には分かりやすく掲載されている。

オセアニアの扱いについて、東京書籍はよく押さえている一方、帝国書院は弱いことはあるが、どちらかというとな帝国書院がよい。

早川教育長：これまで現場で使用してきた帝国書院から、学校からの報告書等で東京書籍がよいというのはどうしてかという観点から意見を述べたい。

東京書籍は全体が幅広くなっているのが前回と違うところである。そのため、ゆったりとおさまっており、海との境界も分かりやすい。帝国書院はコンパクトであるが、その分、ページに押し込まれたような感じを受ける。東京書籍は、巻末見開き3ページで世界全図が見やすく、国旗がその周りに大陸ごとに整理されて並べられている。

東京書籍は人物キャラクターが見開きページに必ず1人は登場し、地図の読み取りの手引きや都道府県と世界の国々の豆知識を紹介する役割を果たして親しみやすい。

東京書籍は、縮尺で「地図上の1cmは」という文章表現を各地図に入れて距離を示しているのが、実際の距離との関係をつかみやすい。現場の学校でも推奨していたが、今年度は東京書籍がよいのではないかと。

山本委員長：地図の見やすさや児童が興味をもつような配列の仕方、地図の内容等についての意見であった。2人の委員は東京書籍がよいという意見である

が、平本委員はどうか。

平本委員：確かに東京書籍はワイドになっている分、地図が見やすく、調べ方の手順も児童にとって分かりやすく工夫されていてよい。また、資料集も児童にとって見やすい。東京書籍でよいのではないか。

山本委員長：どの意見も大切なポイントであるが、調べやすさという点からも、東京書籍を採択することが適当と考える。東京書籍を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【東京書籍を採択】

【算数】

山本委員長：算数の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館、日本文教出版の6社である。意見をいただきたい。

村田委員：算数では、既習事項をもとに学習を積み上げていくことが多く、基礎・基本内容の定着を図るための工夫が重要と考える。

東京書籍では単元末に、「力をつけるもんだい」「しあげ」を配置し、既習内容の確実な定着を図っている。大日本図書でも「まとめの練習」でフィードバックのためのページや問題番号を示している。

啓林館では学習前の準備で既習事項を振り返り、単元末の「たしかめましょう」ではつまずきを確認できる。

日本文教出版では「次の学習のために」で既習内容の確認、「復習」で学習内容の定着、「復習」の最後に「まちがいやすい問題」として、児童が苦手とする内容への対応が図られている。また、単元末の「たしかめポイント」で、問題に学習したページ番号を記載し、既習内容の確認ができるように工夫されていて、自分で復習ができる。

それぞれよいところが見られるが、総合的に見て、日本文教出版がよいと思う。

早川教育長：どの教科書も個に応じた指導を図るための工夫がされている。現場でも少人数指導や特別な指導等を取り入れているところである。算数において個に応じた指導を図る工夫をどのように図っているかという観点で見ても、日本文教出版はその内容を柔軟に取り扱っている。

児童の実態に応じた柔軟な取扱いができるよう補充的な内容、応用・発展的な内容のバランスを考えた問題が集められているので、日本文教出版がよいのではないか。

平本委員：どの教科書も巻末に切り取り教具や索引を設けていて、児童の興味・関心を高めている。

中でも、日本文教出版では「いち・に・算活」を設け、作業的・体験的

な活動や学習したことを実際の場面に活かす活動を充実させ、活動内容をより具体的に示し、手順や準備物を掲載しているので関心が高まると思う。また、写真が多いので児童がイメージしやすいのではないかと。また、東京書籍では「算数おもしろ旅行」など、興味を持って学習できる教材を発達段階に応じて示し、統計資料の読み取りや考察をする教材「算数の目で見よう」により、関心を高めながら学習をする工夫がされている。

日本文教出版か東京書籍がよい。

村田委員：日本文教出版の教科書はA B版の特徴を生かして、余白部分に振り返りや見通しについてのアドバイスや、問題解決のヒントが書かれていて、児童が取り組みやすくする工夫がされている。

平本委員：巻末の発展問題の数が多いことや、算数的な活動、活用を促す単元や読み物が多く収録されているので、日本文教出版がよいのではないかと。

山本委員長：日本文教出版を採択する意見が多かったように思う。日本文教出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【日本文教出版を採択】

【理科】

山本委員長：理科の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、新興出版社啓林館の6社である。意見をいただきたい。

村田委員：どの教科書でも、観察・実験を安全に適切に行うために、色々な工夫がされている。

教育出版では「わたしの研究」として観察・実験のための特設ページを掲載している。

大日本図書では観察・実験の場面で、具体的なポイントや流れの写真・イラストを効果的に盛り込み、児童が見通しをもって取り組めるようにしている。また、安全に対して配慮が必要な場合には「注意」マークを付けているので、児童がより注意しながら実験に取り組めると思う。

啓林館でも、各単元末に留意点が示されたレポート形式のまとめ方の例を提示している点や理科室の使い方や実験器具の正しい使い方が詳しく提示され、安全のための配慮として、注意マークや共通マークを使用し、ルールやマナーが身に付くように工夫されている。

大日本図書か啓林館がよい。

早川教育長：各社とも工夫がされていると思うが、その中で今の意見に加えて、学習意欲を高めるための工夫として、大日本図書では、読み物資料が多く、科学に関する資料や科学者、技術者に関する資料を掲載し、児童がより

興味関心を持てるよう工夫されている。また、学校図書では、防災に関わる項目について、マークを付けて掲載している。

啓林館では、観察・実験の予想・計画、考察の場面では話合いの場面を設けている。例えば、3年で「モンシロチョウはキャベツ畑で何をしているのだろうか？」というように具体的な発問を例示し、話合いを展開することで、言語活動を取り入れた問題解決学習の過程が分かりやすく、児童が意欲的に取り組みやすい構成になっている。現場の意見もこれらの啓林館の内容を推奨している。

啓林館がよいと思う。

平本委員：各社とも理科の学習の一連の流れを分かりやすく記載されている。

学校図書では、見通しを持って学習できるように、一連の問題解決の流れを紙面両サイドバーの上に表示している。

啓林館では巻頭の「学習の進め方」で問題解決学習の流れ全体を示している。また、5・6年の巻末ある全国各地の土地や川を紹介した「地域資料集」が充実している。

大日本図書では問題解決能力の育成とを踏まえた学習の仕方を、各学年の巻頭で「理科の学び方」として示している。また、自分の考えを伝えたり、人の意見を聞いたりする場面を効果的に取り入れている。

全体的に見て、大日本図書と啓林館がよい。

山本委員長：これまでの意見では、大日本図書と啓林館がよいという意見が多い。

早川教育長：県の選定資料を見ると、総ページ数は啓林館がずいぶん多く、充実している。また、どの教科書も書き込みができるようになっているが、啓林館だけが、約50ページのワークシートを別冊にしているので、書き込みスペースも十分あり、使いやすい。

生駒市が力を入れている「環境」について内容が充実しているのが学校図書と啓林館で、さらに啓林館では、持続可能な社会（ESD）も取り上げている点からも生駒市の子どもには、啓林館がよいと考える。

村田委員：啓林館では「やってみよう」「つくってみよう」「理科の広場」「広げよう」で、学習した内容から更に興味関心が広がる工夫がされている。また、裏表紙に理科の学習について保護者へのメッセージを掲載するなど、細かな配慮も見られる点などを考えると、啓林館がよいと思う。

山本委員長：これまでの意見から、新興出版社啓林館を採択する意見が多かったように思う。新興出版社啓林館を採択することに異議はないか。

（異議なし）

審議結果 【新興出版社啓林館を採択】

【生活】

山本委員長：生活科の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、大日本図書、学校

図書、教育出版、信州教育出版社、光村図書出版、新興出版社啓林館、日本文教出版の8社である。意見をいただきたい。

早川教育長：すべての発行者に言えることだが、生活科は1年生で初めて学習に入ることもあり、子どもが喜んで取り組めるように、「はっけんヒント」など、興味を引くような学習の支援が様々な部分で、とても親切に作られている印象を受けた。東京書籍と日本文教出版は現場で扱いやすいかと思う。

東京書籍は、巻末に「あしたへジャンプ」として振り返りや未来の自分を想像する活動が充実している。また、ワークシートを掲載し、未来の自分に手紙に書くことを取り上げている。考えるだけでなく、それを実際に書いたり発表したりすることで思考過程を振り返ることができる。電子黒板やコンピュータなどの情報教育機器を活用した学習活動例は他社にもあるが、東京書籍は、特にデジタルカメラの写真を大きく掲載し、使い方を丁寧に示して分りやすい。現場としては使いやすい教材である。

日本文教出版は、環境や防災について学び考えるページが充実していて、3年生からの社会や理科、総合的な学習の時間での学習に繋がる流れになっている。どちらも生駒市で大切にしている内容である。

平本委員：東京書籍は、全体に、子どものつぶやきや考え方のヒントを示した吹き出しなどが多く配置されていて子どもがそれをヒントに主体的に思いを広げていくことができ、学びが広がりやすい。光村図書出版のように、絵や写真が多く掲載されていて、文章が比較的少なくなっているものは、子どもの自由な発想を広げやすいのでよい反面、指導者の力量に左右される面が大きいと考えられる。全体的に東京書籍がよい。

村田委員：東京書籍は、全体に構成が分りやすい。調査員の調査報告書からも、内容・程度が適切に配列されていて、導入からまとめまでの流れが詳しく示されているとの意見もあった。

東京書籍は、木の葉や実などを実物大で示したものは、その大きさに興味を引かれるとともに、校外での植物探しに役立つ工夫である。啓林館の別冊にもあるが大きさの印象が東京書籍に比べてやや弱い。

大日本図書は、「せいかつのことば」としてページ右端に言語活動を促す短い言葉を掲載している。他の教科書にも同様のものもあるが、このように統一した形で示すと、子どもにとって分りやすく効果的である。大日本図書は、切り取って使用するビンゴカードや、透明シートを使った教材など、子どもが作る活動を取り入れ、楽しみながら学習できる工夫もされている。

それぞれよいところがあり、難しいが、東京書籍か大日本図書がよい。

山本委員長：3人の委員の意見は、東京書籍、日本文教出版、大日本図書がよいとい

う意見であった。3人の意見に共通しているのは、東京書籍が高評価であることから、東京書籍を採択することが適切かと考えるが異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【東京書籍を採択】

【 音楽 】

山本委員長：音楽の教科書の採択を行う。教科書は、教育出版、教育芸術社の2社である。意見をいただきたい。

早川教育長：研修会でも出ていたが、研究部会や学校からの報告書で、昨年まで使っていた教科書とは違う教科書を推奨していたことから、その違いを観点として見てみた。

最近の音楽の教科書では、太鼓や琴、尺八などの和楽器を取り上げた題材が充実している。また、民謡などの昔から郷土に伝わる音楽も掲載されている。2社ともにこのような内容に力を入れていて、大きな差はないように思う。

感じたことを書き込みできるページを2社ともに取り入れている。中でも、教育出版は、言語活動を効果的に進める手立てとして、音楽の感じ、速さ強さなどを表す言葉の例も巻末に示し、自分が見つけた言葉を書く欄も設けることで、子どもの思いや言葉を引き出すようにしている。こういった扱いが違う。

そのような意味では、教育芸術社より教育出版がよい。

村田委員：教育出版は、東日本大震災の復興支援ソングで最近話題になった『花は咲く』など、魅力ある楽曲が掲載されるなど、教材がバラエティに富んでいて、子どもが意欲的に取り組めるものが多い。

教育出版は、4～6年の巻頭で、歌手の元ちとせさんやピアニストの辻井伸行さんなどの著名な音楽家の音楽に対する考えや子どもへのメッセージを掲載している。子どもたちになじみのある人々からのもので、音楽のよさやこれから学習する音楽への意欲付けとなり、効果的である。教育芸術社は、全国の民謡を幅広く紹介していて、その中で「奈良県の吉野筏流し歌」が紹介されている。

どちらもよいところがあるが、総合的に見て教育出版がよい。

平本委員：2社を比べてみると、県の選定資料から、教育出版は教育芸術社より全体で約10ページ程度多くなっていることが分かる。その違いは何かと見ると、鑑賞のページが多くなっていて、充実した内容となっている。教育出版は、折込ページを効果的に取り入れて、風景を大きく掲載したり、大ホールの迫力を巧みに表現したりしている。また、折込ページの紙質も丈夫で、装丁もしっかりしている。その他、音符の種類などの学

習した内容を定着させるために、透明シートを効果的に取り入れるなど、構成を工夫している。透明シートは教育芸術社も取り入れているが、教育出版の方が効果的に活用できている。

教育出版がよい。

山本委員長：これまでの意見では、両方によいところがあるが、全体的に判断すると3人ともに教育出版を推薦する意見が出た。他に意見はないか。

早川教育長：選定会議でも、子どもが楽しみながら意欲的に学習に取り組むための選曲や子どもの気持ちを惹きつけるという観点からも、教育出版を推薦する声が多かったと聞いている。私もそれでよいと思う。

山本委員長：音楽科では教育出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【教育出版を採択】

【 図工 】

山本委員長：図画工作の教科書の採択を行う。教科書は、開隆堂出版、日本文教出版の2社である。意見をいただきたい。

村田委員：どちらの教科書も、身近な材料を使った題材を掲載したり、児童の活動の様子を効果的に載せたり、児童のつくってみたい気持ちを引き出すような工夫がされている。これは教科書を選択するのに大変重要な要素だと考える。その意味ではどちらの教科書も優れている。

早川教育長：今の意見に付け加えて、学習指導要領に示された言語活動の充実や鑑賞の充実を進める題材として、2社ともに、現行の教科書から「小さな美術館」や「教科書美術館」などのコーナーを効果的に配置している。図工では、鑑賞の学習の場で言語活動を取り入れることが多くなるが、日本文教出版は、言語活動を生かした鑑賞を充実させるため、地域の美術館と連携した取組やアートゲームを紹介し、作品を通して児童が感じたことを積極的に発言できるようにしている等の工夫をしている点で日本文教出版がよい。

平本委員：日本文教出版は、総ページ数が開隆堂より10ページ以上多く、題材の数、用具の使い方等を丁寧に載せている。

教科書の題材から選択して図工の年間計画を組み立てる際に、題材ごとに多くのページを使って丁寧に内容や展開を示していることで題材目標を理解しやすい。また、授業を進める上で教科書の題材内容が子どもによく分かり、製作活動を支援できると考える。

ページ数が増えたことにも関連するが、巻末に、材料用具の種類や使い方などを6ページにわたって丁寧に紹介している。

早川教育長：すべての教科と関連付けて道徳教育を行うことが学習指導要領に示されているが、各教科で具体的にどの場面で展開するかはなかなか難しい面

がある。日本文教出版は、道徳と関連付けて活動を展開できる題材に青い鳥のマークを付け、指導者が意識して授業を進められるようになっているのも一つの工夫である。

山本委員長：これまでの意見から、学習指導要領に示された内容、改訂の主旨が教科書にどのように反映されているかは重要な要素である。また、児童や指導者が使いやすいという意見があった。2人の委員から日本文教出版がよいという意見であったが、村田委員はどうか。

村田委員：県の選定資料を見ると、学習へのアドバイスの数が日本文教出版の方が多く示されていて、子どものつまずきを解消する上で、効果的である。開隆堂の特徴として、1～6年すべての「ひらめきコーナー」で、紙を使った工作題材を特集し、最も身近な素材の紙に着目したおもしろそうな題材を紹介している。扱う素材のバランスも当然必要だが、最も身近な紙に多く触れさせる機会を提供する意味ではよい。総合的に見て日本文教出版がよい。

平本委員：開隆堂の「ひらめきコーナー」は、身近な素材に着目して展開する幅を広げる意味でよいと考える。

日本文教出版の巻頭の見開きページでは、発達段階から来る学びの系統性を分かりやすく載せている。

山本委員長：委員の意見は、日本文教出版を採択する意見が多かった。図画工作科では日本文教出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【日本文教出版を採択】

【 家庭 】

山本委員長：家庭の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、開隆堂出版の2社である。意見をいただきたい。

早川教育長：家庭科の学習は、最も日常の生活とつながった学習のひとつである。また、実習を大切にする教科でもあり、学習したことを日頃の生活に生かしたり、学習したことから発展させて自ら考えたり調べたり、実践できるようにすることが大切である。しかし、最近の子どもたちは針や包丁を使うなどの体験は不足している。どちらの教科書も安全面や衛生面に工夫をしているが、開隆堂出版は扱っている題材の数が多く、体験の機会を多くもつことができる。

開隆堂出版は、言葉や図表などを用いて学習する場面を設定し、話し合いや発表等の学習活動を効果的に設定するなど、学習指導要領に示された言語活動の充実を図るよう工夫されていることも推奨の大きな要素である。

東京書籍は、書き込み欄を多く設定し、考えたことを書き込むことで内

容を確認したり、定着を図ったりしているところは評価できる。

開隆堂出版がよい。

村田委員：家庭科は5年生、6年生の2年間で学習するが、開隆堂出版の教科書は2年間を見通した学習内容がひと目で分かる構成になっている。

開隆堂出版は各単元の終わりに、「ふりかえろう」「生かそう」コーナーがあり、実際に授業で学んだ学習内容や実習を日常生活につなげていく工夫がみられる。

選定会議にも出されたように、開隆堂出版は写真やイラストが適度に掲載されていて、作業の手順等が理解しやすい。中でも調理の説明が写真なので分かりやすい。

東京書籍は、衣食住で「日本の伝統マーク」を付けて日本の伝統的な内容を示し、児童に意識させるようにしている。

学習したことを生かす具体例等も示されている。開隆堂出版がよい。

平本委員：東京書籍は総ページ数が開隆堂出版より16ページ多く、一つ一つの題材を丁寧に扱っている。一方、開隆堂出版は、題材数が東京書籍の14題材に対し、開隆堂出版は17題材と多く設定し、内容が豊富である。開隆堂出版はページ数は少ないが、選定会議でも意見があったように、装丁について、紙質や印刷の発色が開隆堂出版の方がよい。

開隆堂出版は、大切な用語が太ゴシックで記載されているので児童がひと目で重要ポイントを理解しやすいよう工夫されている。

調査報告書にもあるように、東京書籍は基礎を重視した内容が中心であるが、開隆堂出版は基礎的な内容から、応用的な内容、さらに児童の興味・関心に応じて「発展マーク」で示すように発展的に学べる内容になっている。児童は日常生活につなげやすく学習の定着を図ることができるなどから開隆堂出版がよい。

山本委員長：委員の意見は、開隆堂出版がよいというものが多かった。家庭科では開隆堂出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【開隆堂出版を採択】

【保健】

山本委員長：保健の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研教育みらいの5社である。意見をいただきたい。

早川教育長：すべての教科・領域と関連付けて言語活動の充実を図ることが学習指導要領に示され、大事だと考えている。各教科で具体的にどの場面で展開するかは教科によって難しい面がある。

各社とも、教科書に書き込み欄を設け、話し合い活動後に課題に対する自分の考えをまとめる記述形式を用い、自分の考えを記入しながら学習

できるよう工夫されていることは評価したい。

中でも、光文書院では、各單元において「つかむ」コーナーで習得した知識を基に思考、判断、表現で活用する3パターンを示している、授業を展開する過程で、学習指導要領に示された、言語活動を図れるよう工夫している。

村田委員：学研教育みらいの巻頭の見開きに記載されている「健康ってどんなこと」「健康について考えてみよう」や、光文書院の3・4年で記載されている「けんこうさがしへ出発」等では保健学習の目的を示す部分が充実しており、児童の保健学習への意識付けとして有効である。

東京書籍、光文書院は、関連するホームページのアドレスをマークで示し、さらに東京書籍は、他教科や単元の学習内容とのつながりを「広げよう」、「つなげよう」のマークで示し、他教科への関連を明示している。

平本委員：各社ともに工夫が見られるが、中でも学研教育みらいは写真の掲載数は他社に比べて多く、分かりやすく、児童の興味、関心を高める上で有効である。

光文書院は、写真の他、イラスト、表、グラフ等の掲載数が他社に比べて多く、また、内容も充実していて、視覚による理解を促す工夫があり、児童の活動や指導者の指導に効果的に活用できる。また、表、グラフ等の資料を読み取る力を定着させることにつながるのではないかと考え、光文書院がよい。

早川教育長：光文書院は、自然災害について詳しく記載している。他社の2ページに対して4ページにわたり自然災害を取り上げていて、通学路や乗り物の中など、具体的な場面を設定して対応策を示しているのはたいへん良い。また、選定会議でも出されたが、海のない奈良県に育つ生駒市の子どもたちに津波など海に関する災害について、知り、考える内容があり、様々な自然災害を学ぶ機会が充実している。

また、光文書院は、犯罪被害についても、4ページを使って具体的な場面を設定して自分の行動を書き込む学習を取り入れている。犯罪から自分を守る意識付けにつながるという点はよい。

山本委員長：学習指導要領に示された言語活動などが教科書にどう反映されているかは採択の重要な要素である。ここまでの意見では、学研教育みらいと光文書院がよいという意見が多いが、村田委員はどうか。

村田委員：教科書のサイズは小さめだが、全体にコンパクトにまとめられていて、内容が充実していることや、意見を交流させながら学習が進むよう、話し合い活動を示すマークを随所に設定していることなどから、光文書院がよい。

山本委員長：委員の意見は、光文書院がよいとする意見が多い。保健では、光文書院を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【光文書院を採択】

【 特別支援学級使用教科書 】

吉村課長：ただいまご審議いただいた検定済み教科書を使うことは、学校教育法第34条第1項に規定されているが、同法附則第9条で、特別支援学級等においては、この教科書以外の教科書を使うことができるとしている。特別支援学級で使用する教科書は、検定教科書以外に知的障害者用として国語、算数及び音楽の各4種類の文部科学省著作教科書が送付されている。この著作教科書は、各教科4冊を発達の程度に応じて☆（ホシ）1つから4つで示されていて、☆4つが中学生用の教科書とされている。発達の程度に応じて☆1つから3つの小学生用を使用することも可能となっている。また、文部科学省著作教科書や一般図書として示されている絵本等について、県立教育研究所の教科書センターへ行き、見本本を見てきた。

以上を考慮し、第一に、奈良県教育委員会の「平成27年度使用小学校教科用図書小中学校特別支援学級及び特別支援学校（小・中学部）教科用図書採択基準」において、小中学校特別支援学級及び特別支援学校（小・中学部）で使用する検定教科書の採択については、生駒市で採択されている検定教科書と同一のものを採択することが示されていること。第二に、児童は特別支援学級担任の個別指導を受けながら、時には交流学級で授業を受けることもあり、他の児童と一緒に学習する場合には、生駒市が採択した各種目の教科書を使うことが必要であること。さらに、児童や保護者には、交流学級の児童と同じ教科書を使いたいという思いや願いがあることから、特別支援学級の児童も、在籍する当該学年の種目ごとに採択された教科書を使用し、児童の実態等に応じて、下学年の採択教科書を使用したり、附則第9条に規定されている有益適切な教材を使用したりすることが望ましいと考える。

山本委員長：先程採択した教科書を、特別支援学級においても使用することが望ましいという考え方である。特別支援学級で使用する教科書について、ただ今、事務局から説明を受けたとおり、生徒が在籍する当該学年の種目ごとに採択された教科書を使用することに、異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【当該学年の種目ごとに採択された教科書を使用】

山本委員長：選定委員の皆様、調査部会の先生方には、長期にわたり研究を重ね、資料及び報告書を作成していただいた。また担当部署においては、教科書センターを開設し、広く市民の意見と教科書採択に必要な情報を収集し

ていただいた。感謝を申し上げる。

採択した教科書がどのような教科書であれ、子どもたちにとっての最大の教育環境は現場の先生方である。子どもたちが健やかに育つためには、現場の先生方の熱意と努力と研究に任せるしかないのが現状であり、現場の先生方にはよろしくお願いしたいと伝えていただきたい。子どもたちの学習に、本日採択した教科書を生かされるよう、お願い申し上げる。

○閉会宣告

午前 11 時 15 分 閉会